五行説

「脾」の季節は　夏の土用（7月19日前後）～立秋の前日（8月7日前後）

蘇せいシリーズ 3（脾系）

「蘇　ひ　仙」

漢方でいう脾臓は解剖学的にいう脾臓とは違い、胃・すい臓・小腸など消化器全般を意味します。脾の季節は“夏の土用”とありますが、“土用”とは季節と季節の変わり目の 18～19 日間をいいます。つまり年４回あるわけですが、夏の土用が脾系として五行説に入っているのは、高温・多湿の過酷な環境の中で、消化器系を大切にするという意味が含まれているのでしょう。

ところで、日本では「(夏の)土用の丑の日」に鰻を食べる風習がありますが、漢方の本場台湾・中国にはありません。

脾系は、飲食物からエネルギー（精気）を抽出して全身に運搬し、同時に体内の津液（しんえき＝気血水の水と同じ意味）も運搬するので、脾の機能が衰えると、食物の精気が全身に行きわたらなくなり、腹部膨満、腹鳴、下痢、消化

不良、食欲不振などが起こります。また、「脾は口に開孔する」とされ、脾に異常が起こると唇は青白くなり艶を失います。土用の季節の味は甘味で、色は黄色です。この時期少し意識して、かぼちゃ、とうもろこし、さつまいも、バナナなどを摂るのは理にかなっているといえます。この時期に脾系を手助けしてくれるのが蘇せいシリーズの「蘇ひ仙」です。消化器系の働きが低下するこの時期だけでも「蘇ひ仙」を補給するのは適切な方法でしょう。